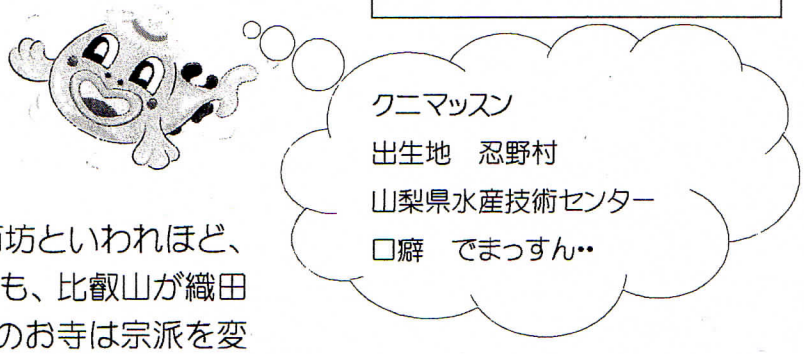
こうざえもんつうしん
講左衛門通信
平成27年5月24日
第４５号

発行　天台宗忍草山東円寺
〒401－0511
南都留郡忍野村忍草38
☎　0555－84－4114



『今日は、市川大門に残されている石碑の話であったな。さてクニマッスンは、市川大門に天台宗のお寺があったことを知っておるか？』

『聞いたことはあるでまっすん。天台百坊といわれほど、立派なお寺があったでまっすん。けれども、比叡山が織田信長によって焼き討ちされた後、天台宗のお寺は宗派を変えてしまったでまっすん。山梨県の社寺記に記録が残っているでまっすん。』

『そうなんじゃ。平塩寺跡というのが天台百坊の本寺だったんじゃが、「甲斐源氏発祥の地館跡」の隣にあるんじゃ。市川大門というのは、甲斐国の要所だったんじゃな。さて、大我講の石碑群がある場所は、碑林公園の脇の登山道を登った古城山にあるんじゃが、古城山には浅間神社が祀られてあるんじゃよ。浅間神社といっても木造の小さな祠で朽ちかけていて、当時の面影は全くないんじゃ。しかし、登山道はとてもきれいに整備されているぞ。登山道を上って最初の石碑は小御岳碑と亀岩八大竜王碑があるんじゃ。大我講にとって何より大切な場所は、北口浅間神社ではなく小御岳神社だったんじゃな。北口浅間神社よりも小御岳神社の歴史は古いことを考えると、当然なのかもしれないが、今となっては小御岳神社とどのようにして縁が結ばれたのか想像の域を超えることができないのが残念じゃ。』

『市川大門の大我講の講中は、まず、古城山にあった浅間神社に富士登山をする報告と、道中安全を祈願したでまっすん。忍野八海を巡り身を清め、忍草浅間神社をお参りした後、東円寺で入山料を払い、入山許可の御印紋頂戴し、いよいよ富士山に登るでまっすん。昔の人々は、様々な場所で祈りを捧げていたでまっすん。すべての場所がとても大切だったでまっすん。けれども、現在はその大切な場所が消えようとしているでまっすん。消えないように守り伝えていくことがおいら達の責務でまっすん。』

『そうなんじゃよ。古城山にたくさんある大我講中の石碑はいくつか倒れておるんじゃが、大人が３人いてもその石碑を立てることはできないほど大きなものなんじゃよ。わしらがどれほど頑張っても、昔の人々の思いや残されているものを大切にしていこうと賛同する人が増えなくては、守り伝えることは無理な話じゃ。講左衛門通信を発行することによって、関心を持つ人が増えることを願っているんじゃが、なかなか難しいのが現実じゃ。』

『おいら達は、今できることを精一杯やるでまっすん。』

『そうじゃな。さて、次回は、江戸時代に東円寺の版木を刷ったものが発見されたんじゃが、発見に至るまでの不思議な経緯を話そうと思っておる。』

『不思議な話がたくさんあるでまっすん。次回も楽しみにしているでまっすん。』

富士大我講左衛門（ふじのだいがこうざえもん）　年齢不詳
職業　大我講の先達（せんだつ）
（先達とは案内責任者）

『講左衛門通信』は、第２・第４日曜日に発行予定